

2023 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	文学言語学専攻
専攻主任名	烏谷 知子
教務主任名	鈴木 博雄

200 字以内

今期の総評
回答率は 100%（5 名回答）であった。大学院に対する総合的な満足度に対する評価は 4.8 で好調である。一方、図書館の利便性、コピー機等の設備の有益度、学会への積極的な参加、研究の進捗状況に関する評価が低めであった。

200 字以内

改善のための方策
図書館の利便性については、指導教員を中心に、各研究分野に特化した図書館の活用方法に関する指導の強化を図る。コピー機等の設備については引き続き、院生から具体的な要望を調査する。学会・研究会への参加についても、その有益性についての認識を深める機会を提供する。

2023 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	日本文学専攻
専攻主任名	嶺田明美
教務主任名	嶺田明美

200 字以内

今期の総評
設問 1～7 のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに関連する設問についてはおおむね良好である。 院生研究室やラーニングコモンズについては、4 ポイントに届いていない。 学会活動及び研究テーマの進捗状況は全体としては低い、個別の解答では高いポイントの学生もいる。これについては、在籍者数が少なく、全体のポイントへの個々の回答の影響は大きいことを前提にしたうえで、対応を考えたい。

200 字以内

改善のための方策
研究テーマの進捗については、修士論文担当者と本人、また専攻科教員と連携して、執筆を促したい。院生研究室については設備に関する要望もあるので、関連部署に願い出て改善を図り、利用率の向上を目指したい。学会活動は、ゼミごとに参加しやすいものから順に紹介し、積極的な参加を促したい。

2023 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	英米文学専攻
専攻主任名	川畑 由美
教務主任名	金子 弥生

200 字以内

今期の総評
「カリキュラム・授業」に関しては、ほとんどが 5.0 と高い評価を得た。一方で「院生」の部分では、研究室の諸活動や学会への参加が、昨年同様 2.0 と低かった。 履修している授業では、熱心に取り組んでおり、修士論文中間発表会でもそれぞれが研究成果を発表して、刺激を受け合った。

200 字以内

改善のための方策
コピー機・パソコン・プリンターに関する項目が 4.0 であったので、院生室のパソコン機器の状況を確認したい。また、研究室の諸活動や学会については、後期には学会の大会なども開催されるので、各自の研究に参考になるような学会への参加を促していく。

2023 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	言語教育・コミュニケーション専攻
専攻主任名	近藤 彩
教務主任名	鈴木 博雄

200 字以内

今期の総評
回答率は 90.9%（11 名中 10 名回答）であった。大学院に対する総合的な満足度に対する評価は 4.9 で好評であった。一方、院生研究室の有益性及びコピー機等の機器についての評価がやや低かった。

200 字以内

改善のための方策
院生研究室については、授業の空き時間を利用した院生間の意見交換、定期的な読書会開催等のための場とするよう、院生に促す。学会参加についても、大会や研究会の情報を一層、積極的に伝える。院生各自の研究の進捗については、指導教員を中心に、より有益な研究方法の提供を心がける。

2023 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活機構学専攻
専攻主任名	高尾 哲也
教務主任名	石井 正子

200 字以内

今期の総評
回答者が 8 名中の 2 名のみだったので、専攻の学生全体の評価とすることはできない。回答した学生の評価はほとんどの項目で、4.0 を上回っており、満足度は高い。コピー機についての劣化の指摘が 1 件あった。

200 字以内

改善のための方策
次回は、回答率を上げるための方策を取りたい。 院生によって、拠点とする部屋が異なるので、コピー機の劣化等について、具体的にどのコピー機を指すのかわからない。個別に要望を聞く機会を作ることも必要かもしれない。

2023 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活文化研究専攻
専攻主任名	野口朋隆
教務主任名	鶴岡明美

200 字以内

今期の総評 今期は入学者が例年に比べ大幅に増加したが授業内容等に差がある訳ではないものの、雰囲気など学ぶ環境に変化があった。もっとも集計結果の各数値を見ると、大きな問題はなく、大学院に関して満足が得られている。内部進学者（2 年制）と社会人入学者（1 年制、2 年制）が同じ教室で授業を受けることでお互い良い刺激があり、これは教員も同様であった。コロナ禍もようやく落ち着きを見せるなかで中止していた対面での報告会（文化史例会）も再開され、専攻として学ぶ環境をさらに整えていきたい。
--

200 字以内

改善のための方策 一番多かった改善依頼が社会人大学院生からであり、授業時間・曜日に融通を持たせて欲しいというものであった。夜間や土曜日の設定についてはなるべく社会人の活動形態に合わせていきたいと考えているが、教員の勤務時間を含めて調整する必要があるため、今後ともすりあわせていくとともに、ZOOM や YouTube を活用した授業形態を考えていきたい。図書館の日曜日・夏休みにおける開館時間が短いという意見があったので図書館へ依頼をしていきたい。
--

2023 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活科学研究専攻
専攻主任名	横塚昌子
教務主任名	白川哉子

200 字以内

今期の総評

本年度は、在籍者が 2 年次だけの 4 人である。全専攻平均値より総合平均がわずかに低い。評価が 4 以下であった 4 項目の中で、「2 大学院の授業は期待していたものに比べていかがですか」の評価が、3.33 と低いので、各院生と具体的な意見聞く機会を作り、今後求める授業像を検討する必要性を感じる。図書館やラーニングコモンズの利用については、大学の施設を頻繁に利用する学生としない学生がいるので、評価が低くなったと思われる。

200 字以内

改善のための方策

「開設授業科目数は、選択履修の希望を満たしていますか」「学位論文（修士）、又は課題研究等の指導は適切に行われていますか」の設問は、全専攻平均より評価が高かった。学生が、大学院に何を期待しているかを個別に面談や、院生同士でも話をする機会を設け、現状ついて意見を聞き把握することは、今後のカリキュラム編成にも参考にできるので、これらの試みに取り組む必要があると考える。

2023 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	心理学専攻
専攻主任名	松野隆則
教務主任名	島谷まき子

200 字以内

今期の総評

回答率が 58% で、4 割を超える専攻院生が大学院での学びに関する自らの意見を表明しなかったことは大変残念である。

カリキュラムや専攻での研究指導に関する設問のほとんどが 4.0 を超える評価平均であり、回答した院生は当専攻での学びについて概ね満足していると考えられる。

一方で研究室の諸活動や学会への参加に関する評価回答の平均は 2.38 とこれまでに増して低かった。専攻教員からの働きかけで学会への入会者は以前より着実に増えているものの、授業以外での研究活動に大学院生として参加することに繋がっていないのが現状である。

改善のための方策

FD アンケート実施時に回答の呼びかけを行うだけでなく、その意義についてガイダンスで説明して専攻の教育活動改善への参加を求めている。

また、自由回答で要望があった就職活動に繋がる情報提供については、従来よりも早い時期に、より具体的な就業先情報の開示等を積極的に行っていく計画である。

修了要件単位数が他専攻の 1.5 倍以上である臨床心理学講座の院生の中には、授業と学内外の実習と修論研究だけで手一杯になり、それ以外の活動の余力に乏しい者も存在する。多様な院生が入学してくる中で、研究活動の奨励についてどのような方針・施策を取るべきか専攻内で話し合いたい。

2023 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻
専攻主任名	鶴田佳子
教務主任名	川崎愛

200 字以内

今期の総評
今期 2 年制大学院には他大学からの入学者 1 名を含めて合計 3 名の 1 年生を迎えた。指導教員や各授業の受講者との関係は良好で、アンケートは概ね専攻の平均を上回っている。ただ、基礎学科が 2 つあり、院生各自のテーマが広いため、院生同士で互いの研究についてディスカッションをして新たな視点を獲得したり、進路につながる発見をするのが難しいようである。

200 字以内

改善のための方策
図書館の貸出システムと院生室のコピー機、プリンター、スキャナー等の設備が使えないことがあった、WiFi 接続が不安定とのコメントがあり、今後の改善が求められる。専門職大学院との同時開設科目は 1 年制と 2 年制を区別するために、2 年制は科目名称を演習 I 1、演習 I 2 としている。何年生の前後期いつ履修すればいいのか分かるようにしてほしいとの要望があったので、履修ガイダンスでの説明を一層丁寧に行う。

2023 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

200 字以内

200 字以内

専攻名	環境デザイン研究専攻
専攻主任名	下村 久美子
教務主任名	番場 美恵子

今期の総評
カリキュラム・授業についての分類別の平均は 4.52、院生自身についての評価は 4.08、総評は 4.83 で、概ね平均的な評価であった。しかし、個別の評価では、院生室やラーニングコモンズの利用状況や研究室の諸活動や学会活動について、かなり低い評価をしている院生がいることを確認した。

改善のための方策
院生の様子を把握しながら、面談や声をかけるなどして改善を目指したい。

2023 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	人間教育学専攻
専攻主任名	石井 正子
教務主任名	白敷 哲久

200 字以内

今期の総評
設問 2 は 4.57、設問 17 は 4.71 と高評価である。自由記述に「素晴らしい学校だと思い、友人にも勧めました。先生方にも感謝しております。」とあること等から、大学院生が期待する学びの場を提供できたと考えている。具体的には、高い専門性を有する教員の授業を多数開講できた点と、大学院生の要望に応じて柔軟にオンライン授業を組み合わせることができた点が、高い評価につながったのではないかと考えている。

200 字以内

改善のための方策
現職教員である大学院生は修士論文執筆のためにまとまった時間を取ることが困難である。そのため、2 年間で卒業を目指す場合、きめ細かな指導が必要になる。近年、長期履修生に転ずる大学院生が散見されていることから、何とか執筆の時間を確保するように働きかけ、今以上に丁寧に見取っていくことを考えていきたい。 また、学会への参加など、学外での研究活動にも積極的に取り組ませていきたい。

2023 年度前期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉共創マネジメント専攻
専攻主任名	粕谷 美砂子
教務主任名	李 恩心

200 字以内

今期の総評

全体的に専門職大学院に対する満足度は高い評価が得られたものの、他研究科に比べてやや低い評価が出ている。カリキュラムや授業の項目においては、学位論文または課題研究等の指導が適切に行われていることや、授業に対する満足度が高い結果となった。特にオンデマンド講義が充実しているとの評価であった。しかし、図書館の活用や院生の研究活動（特に学会等への参加）の項目について低い評価となっており、社会人院生の研究活動への計画的な指導が課題となっている。

200 字以内

改善のための方策

全体的にカリキュラムに対する期待度や満足度をさらに高めるための工夫が求められる。研究指導においては専門職大学院の理念を踏まえ、院生の学びへのサポートが求められる。また、担当教員と相談しやすい体制づくりに向けて研究指導の時間を確保していく。自由記述の内容として、経営管理分野の内容を充実してほしいとの意見が上がっているが、次年度より関連科目を増設するため段階的に対応していく。また、時間割の再編に対する要望や授業ツールの改善への要望などに対して対策を検討していく。